

目薬の使い方（ポスター説明文）

1. 正しく目薬を使いましょう

まず下まぶたを指で下にひき、大きく目を開けてください

次に、目薬の先（ノズル）が、まぶたやまつ毛に触れないようにさしてください。

目薬はきれいな工場の清潔な機械で、ゴミなどが入らないように作っています。

目薬をさす時に目薬の先がまぶたやまつ毛に触れると、せっかくきれいに作られた目薬が汚くなってしまいますので、目薬の先がまぶたやまつ毛に触れないようにさしてください。

2. 目薬のきれいなところ

目薬は日光があたらない、すずしい場所に保管してください。

目薬は日光のような強い光や、熱に弱いからです。強い光や暑いところに保管すると、よく効くはずの薬が効かなくなります。

日光は非常に強い力を持っており、目薬に入っている成分（薬）を分解することがあります。また、熱も同様に目薬に入っている成分を分解することがあります。各製薬メーカーでどの程度分解するか等の確認は行っていますが、分解の程度は、光の強さや、温度や時間によっても変わり、目薬が効かなくなったり、場合によっては、分解した成分が悪影響を及ぼすことが考えられます。

しっぽやタンスにある防虫剤などの様に、においの強いものの近くに目薬を置いていると、その匂いが目薬にうつったりするので、においの強いものの近くには目薬は置かないようにしましょう。

冷蔵庫に入れていた牛乳にほかの食べ物のにおいがうつり、臭くなることがあります。この場合も同じような現象が起こっています。キャップをしっかり締めておけば、においがうつったりなどないと思われるでしょうが、目薬の容器はプラスチック樹脂であり、においが容器を通過して中の目薬ににおいが移ることがあります。薬箱や引き出しに入っているしっぽなどと一緒に保管しているとシップのスツとするにおいが目薬にうつったり、防虫剤の入れてあるタンスにつるした洋服のポケットなどに目薬を入れておくとその匂いがうつり、うつったにおいの成分で目がしみて痛くなるなどの事例があります。

3. その他の注意

開けたら、早めに使ってください。

（使用状況や保管状態にもよりますが、開封後は処方された目薬は1ヶ月以内、市販の目薬は3ヶ月以内を目安にご使用下さい）

なお、点眼剤のラベルまたは箱に表示されている期限は、未開封状態での点眼剤の品質を保証する期間です。

直接容器に油性ペンで記入すると、油性ペンの成分が容器を通過して中に入ることがありますので、容器に直接記入しないようにして下さい。